

「ありがとう」を伝えたい

生駒市立生駒北中学校 3年 塩崎 陽梨

私が所属していたバドミントン部では、夏になると必ず悩まされたことがある。それは体育館の暑さだ。夏の体育館はサウナのように暑い。シャトルが揺らぐために扇風機は付けられず、窓も開けられない。強いて言うなら地獄のようだ。プレー中に何度も「熱中症」という言葉が頭をよぎった。私は顔が火照りやすいので「水分を取りなさい」と顧問の先生によく声をかけられた。けれど、どれほど気をつけても、熱中症警戒アラートが発表されると練習は中止になった。

引退を控えていた今年も例外ではなかった。私たちは今日も練習できないのかと悔しい思いを何度もした。残り少ない、貴重な練習時間。みんなと汗を流したいのに、それが叶わない。試合前でもお構いなく暑さはやってくるし、来てすぐ帰ることになった日もある。部活動がしたいという気持ちが強い分、練習時間を奪われることは、無念だった。

ある日、そんな私たちに朗報が届いた。なんと体育館にエアコンが設置されるというのだ。初めてそのことを聞いたとき、私は心が弾んだ。というのに、工事は夏休みに、完成は今年の秋だった。引退する私たちはそこで練習することができない。本音を言えば、私もその環境で練習してみたかった。いくら暑くとも気合いで走った日々。それはそれで楽しかった。けれど、後輩たちはあの暑さに耐えずとも、全力で練習できる。熱中症の危険におびえることなく、仲間と夢中になれる。もう熱中症警戒アラートに邪魔をされない。それが嬉しく、どこか羨ましかった。

エアコンの設置には莫大なお金が必要だ。そのお金は税金から支払われている。税金と聞くと今まででは、納めるばかりというマイナスなイメージだった。しかし、私たちにとって最大の悩みだった暑さは、税金のおかげで解決されるのだ。私が感じた無念を、次の世代が味わわずに済むのは、税金があったからこそ。今回の経験で、税は私たちの生活や未来を形づくる力なのだと実感した。

振り返れば、学校や教科書も、体育館も、バスも、部活の試合や備品だって、すべて税で支えられている。私たちは日々その恩恵を受けながら生活していたのに、それを当たり前だと思い込んでいた。部活動という身近な出来事を通して、私は初めて「税に守られている」という実感を持つことができた。

後輩たちが快適な環境で練習できるように、将来の子どもたちもまた、もっと良い環境で学び、成長していく。そしてもっと良い社会を作ってくれるのだろう。強い者が弱い者を守り、弱い者は強くなつてまた弱い者を助ける。この循環こそが、次世代の素晴らしい社会を構築していくのだと思う。

これは人々が支え合い、つくり出した希望だ。私自身もいつか、その希望を次の世代へ、灯していく大人になりたい。